

平成 28 年度第 2 回国立大雪青少年交流の家施設業務運営委員会議事要旨

日時：平成 29 年 3 月 9 日（木）15:40～16:30

場所：国立大雪青少年交流の家本館第 1 研修室

運営委員出席者：笠井委員、大島委員、浜田委員（吉川代理）、佐藤委員（尾中代理）、  
飯塚委員、瀬川委員、西海委員、山中委員、十川委員、尾崎委員、松倉委員、  
岩城委員

計 12 名

運営委員欠席者：目黒委員、石田委員、片岡委員、宝田委員、神子素委員、西村委員、田中委員、  
村上委員

計 8 名

大雪青少年交流の家出席者：阿部所長、穴澤次長、秋山事業推進室長、久保企画指導専門職、村澤企画指  
導専門職、是安企画指導専門職、国枝企画指導専門職、安達企画指導専門職、  
安藤管理係長、澤田総務係長、三田総務係員

計 11 名

(●事務局 ○議長 □委員)

●開会宣言（穴澤次長）

●会議の流れ（穴澤次長）

会議日程、配布資料の確認、欠席委員の報告。

委員会規則第 6 条の規定に基づき、笠井委員長の進行で議事開始。

○議長

説明事項の意見・質疑について説明終了後に一括して行うこととし、議題 1 「平成 28 年度  
事業（部会）報告」をそれぞれの部会から説明。

●各部会の進捗状況について、パワーポイント資料に基づき説明。

<利用促進部会>

山中部会長説明。

1 利用促進及び広報活動方針に関すること。

① 利用者数の確保（3 月 1 日現在）

目標：総利用者数 12 万 7 千人

（宿泊利用 8 万 8 千人，日帰り利用 3 万 9 千人）

前年度宿泊者伸率：+26.97%（全施設中 1 位）

## ② 稼働率の確保

目標：稼働率 54%以上の達成

現状（見込）：稼働率 62.1%

### 【成果に結びついた要因】

- ・閑散期（9月～10月）の大型利用 韓国団体 17, 143名
- ・隔年開催の自衛隊競技会開催 1月利用前年度比 +3, 669人
- ・利用者数確保対策事業の実施 4事業 148名参加
- ・利用促進対策別リーフレット作成・配布 6種
- ・大規模商業施設での単独広報ブースの出店  
2月に2日 690名に体験、広報  
3月12日（日）にも実施

## 2 研修支援に関すること

### ① 「施設の研修支援等に関する自己採点表」（施設ミシュラン）の達成度の向上

目標：達成度 80%以上の確保

現状：達成度 96.2%

#### ◎機構から年度途中の基準提示「利用者アンケート総合的満足度」

「満足」84%以上の確保

現状：88.5%（2月末）

### 【さらなる充実対策】

- ・活動プログラムの体験会の実施決定  
3/21（火）に施行実施 H29は年間7回実施

## 3 広報活動の充実に関すること

### ① 高齢者大学での宿泊利用推進

目標：5大学の利用

現状：宿泊4大学+日帰1大学

### ② 利用者アンケート「パンフレットやホームページなど事前の情報提供」における満足度

目標：「満足」「やや満足」で100%達成

現状：100%（2月末）

## 1 平成29年度利用促進及び広報活動の充実

### ① 利用者数・稼働率の確保

平成28年度比で落ち込むことが想定される

目標：利用者数11万1千人（宿泊7万1千人・日帰4万人）

（第2基中期目標期間H23-27の平均値を確保）

### ② 学校等利用促進広報の推進

目標：道内各地域に直接出向いての広報実施

- ③ 民間等地域の主体と連携した利用促進方策の検討  
目標：富良野自然塾・旭山動物園との連携による利用促進の検討
- ④ 閑散期における利用促進の継続実施  
目標：ターゲット別チラシにより大学等部活、企業研修、高齢者大学、  
家族・グループ等への継続広報

## 2 平成 29 年度研修支援の充実

- ① 青少年、青少年教育指導者等に対し教育的なねらいを踏まえた研修計画の作成支援  
目標：大雪プログラム体験会の定期的な実施  
「ねらい別・活動プログラム」の手引き化  
外部研修指導員の導入の可否検討
- ② 活動コースの安全管理・活動プログラムの危機管理対策の整備を通じた教育環境の整備  
目標：活動コースの定期点検の実施と記録簿整理  
危機管理マニュアルの見直し  
職員の資質向上のための研修実施

## <事業部会>

### 大島部会長説明

#### 1 教育事業等の企画運営に関すること

- ① 登山指導者研修会（看板事業） 6月25日～26日  
参加者：26名
- ② ワイルドライフキャンプ2016（地域力向上事業） 8月3日～10日  
参加者：20名
- ③ 青少年スキルアップセミナー（指導者養成） 4月23日～24日  
参加者：27  
ゆーすびあボランティア塾（指導者養成） 5月28日～29日  
参加者23名  
教員免許状更新講習（指導者養成） 7月31日～8月2日  
参加者21名  
自然体験活動指導者（NEALリーダー） 1月10日～12日  
参加者：20名
- ④ ユースオブワールド（文科省委託） 8月11日～13日  
9月17日～19日  
参加者：34名（日本の青年、道内の大学で学ぶ東アジアの留学生）  
実行委員会によるプログラムの企画運営をとおして、リーダーを育成する。
- ⑤ 泊まって 遊んで 親子でポン！（幼児運動普及プログラム）  
参加者：23組 51名  
幼稚園・保育園に通う園児を含む親子

国立青少年教育振興機構において開発した幼児期の運動プログラムを広く普及した。大雪では初の親子宿泊事業となった。

- ⑥ ワンダースノーランド冬の森で不思議を探そう 2月4日～5日  
参加者：16名（上川管内の小学校4年生～6年生）  
冬の森林や原野での自然観察をとおして、自然界の「不思議」を探し出し、科学的に考える活動を実施した
- ⑦ 冬のパワーアップ大作戦！（冬の体力向上プログラム） 3月4日～5日  
参加者：68名  
子供たちに雪を使った遊びの機会を提供し、体力・運動能力の向上を図り、仲間とのコミュニケーション能力や協調性を高める活動も実施。

## 2 連携促進事業に関すること

- ① 企業や民間団体等各機関と連携した事業の実施
  - ・教育事業では、14事業中、11事業において企業や民間団体等  
「美瑛山岳連盟」「北海道立図書館」「林野庁上川中部森林管理署」「美瑛町お話し会あいあい」「どんころ野外学校」「ちびっこ大将のくにクラブ」「公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構」「美瑛町農業協同組合」「美瑛町観光協会」「十勝岳山麓ジオパーク推進協議会」等リレーションシップ事業や地域ぐるみでも連携
- ② 全ての教育事業で募集定員を充足させる  
14事業中、9事業で充足  
「泊まって 遊んで 親子でポン！」「体験の風キャンプ」「ワンダースノーランド in 大雪」で定員を割っている。  
体験の風キャンプについては、募集人員が施設側との間で決めた人数を示しており、子供の入れ替わりもあり定員の充足が難しい。募集人数の提示について見直していく。また、チラシのみのお知らせではなく、直接的なお知らせ等の工夫も必要。  
今年度最後の教育事業である「パワーアップ大作戦！」は初めてインターネットでの申し込みができるように設定したところ、早い段階で定員を超える申し込みがあった。今後もネットからの申込を取り入れていく。
- ③ 全ての教育事業の募集開始を5週間前に実施する  
14事業中 11事業で実施  
募集開始が遅れると人の集まりはよくないが、今回、早めに募集を開始した幼児プログラムは結局定員に達しておらず、募集開始時期のみではなく、広報の在り方や申込方法について利用者側に立った方法も吟味し、余裕を持った募集開始を目指していく。
- ④ 企画段階から関係機関・団体等との検討委員会を実施  
「ワイルドライフキャンプ」「ユースオブワールド」「体験の風全道フォーラム」  
様々な意見をいただき、取り入れることで事業の幅が広がり、結果、ねらいを達成する運営へとつながった。
- ⑤ リレーションシップ事業を活用した「早寝早起き朝ごはん」国民運動の推進

それぞれのプログラムの中で、食や生活習慣、体力増進について取り上げたり、パンフレットの配布当、普及啓発した。

- ⑥ 幼児期の遊びを中心とした運動プログラムの推進  
美瑛町、旭川市内の幼稚園への出前、幼児期の運動プログラム普及啓発のための親子事業「泊まって 遊んで 親子でボン！」の実施。
- ⑦ 「体験の風をおこそう」運動の普及啓発  
北海道 179 全市町村の事業エントリーを達成。

### 3 研修支援事業に関すること

- ① 北海道青少年教育施設協議会と連携した研修会の実施  
スキルアップセミナーは職員の研修の場として、体験の風をおこそう全道フォーラムでは職員の活躍の場として実施。
- ② 市町村教育委員会等と連携した体験活動・生活習慣・読書週間定着の取組や事業の実施  
釧路町では体験活動を実施、苫前町との連携では、交流の家での体験活動実施、十勝 4 町（幕別町、池田町、豊頃町、浦幌町）の図書館と読書通帳を使った読書活動定着への取組への協力を行った。

### 1 平成 29 年度事業部会計画

#### 1) 看板事業・地域力向上事業について

- ① 看板事業を「登山指導者養成事業」とし、「活火山の理解と安全対策」を取入れ、火山防災に対する意識を高める。
- ② 地域力向上事業として小学生～中学生を対象とした 7 泊 8 日の長期自然体験活動を 3 年計画の 1 年目として実施する。  
事業の成果を明らかにし、普及を図る。  
連携率を 100%、80%以上の満足度を得る。

#### 2) 指導者等の養成・研修事業に関すること

- ① 自然体験活動指導者養成事業（NEAL）の実施  
20 名の資格取得者をを目指す
- ② 教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担うボランティア人材育成のための事業を実施する。  
40 名以上のボランティア養成
- ③ 自然体験や集団宿泊活動等に必要な知識・技術の向上を図るため、教員免許状更新講習を実施する。  
35 名の参加を得る。
- ④ 北海道青少年教育施設協議会と連携した研修会の実施  
青少年教育施設職員の資質向上のための研修会の実施
- ⑤ 指導者養成事業において、80%以上の事業の参加者から満足度を得る。  
80%以上の評価を得る。

3) 普及啓発に関すること

- ①「体験の風をおこそう」運動、「早寝・早起き・朝ごはん」国民運動の普及啓発資料等を活用し、普及啓発に取り組む。

教育事業2事業において実施。

- ②子供の貧困対策に関する大綱を踏まえた「生活・自立支援キャンプ」を実施する。

2施設以上と連携して実施

- ③ 幼児期の遊びを中心とした運動プログラムの推進

36の基本的な動きを活用した2事業を実施。

4) 地域関係機関との連携促進

- ①青少年教育や家庭教育、社会教育に関する道内の機関や団体との連携体制を築き、情報共有とネットワークを活かした事業展開を実施する。

北海道青少年教育施設協議会、北海道教育委員会、市町村教育委員会、北海道教育庁上川教育局、社会教育主事会、上川家庭教育サポート企業ネットワーク、公立施設(図書館・公民館)等との連携を図る。

<管理運営部会>

瀬川部会長説明

1 50周年記念事業に向けた事業計画及び寄附金獲得に関すること

- ① 50周年記念事業の支出報告 総額：8,634,848円

・50周年記念式典及び祝賀会	：4,537,941円
・北海道青年団体協議会青年大会	：71,876円
・全道高齢者大学移動学園祭	：447,159円
・子供のための火山防災フォーラム	：91,923円
・ゆーすフェスタ2016兼北海道職業高校の祭典	：1,135,585円

・体験の風をおこそう・全道フォーラム	：2,350,364円
--------------------	-------------

- ② 寄付金計画(目標額350万円)

寄付総額：4,690,000円(50周年式典関係のみ)

・美瑛町	：2,000,000円
・企業	：1,430,000円
・OB	：940,000円
・その他	：320,000円

寄付者で希望のあった方について、HP及び食堂前廊下に名前を掲載、企業の皆様については、希望で記念誌の後半に広告ページを設け企業名を挙げている。

## 2 受益者負担の適正化に関すること

### ① 講師棟施設使用料収入の導入（平成 28 年 10 月 1 日より実施）

講師棟利用（2 月末現在）

延べ人数：431 人，施設使用料収入：517,200 円

### ② バス利用料金徴収導入について

・導入時期：平成 30 年 4 月 1 日

・対象団体：青少年団体のみ

・金額：

a) 使用料 交流の家～旭川駅 800 円

交流の家～富良野駅 500 円

b) 燃料費 大型バス 1 k m 当たり 20 円

※検討してきたが、本部方針により徴収は行わないこととした。

### ③ プール使用料の導入について

平成 30 年に町内にプールが建設のため導入中止とした。

次年度以降に「プールの在り方検討会」を設置し、交流の家のプールの有用性等について検討する。

### ③ 売店営業終了に係るクラフト料金設定について

売店業者の営業終了に伴い次年度以降の売店業務委託業者を探していたが受け手が見つからず次年度以降は、売店無しでの運営を行う。

クラフト材料については、利用団体もいることから「特別研修活動プログラム」料金の設定を行い、販売することとした。

料金設定 仕入れ金額

儲け販売に関しては、不可となっている。

開始時期：平成 29 年 4 月～

## 3 施設・設備の長期計画（施設マスタープラン）の策定に関すること

※本部要求予算の実現

① 温泉管漏水修繕工事：825,000 円

② 浴室排水管改修工事：438,000 円

③ 合併処理浄化槽屋内放流ポンプ配管取替工事：447,000 円

その他として、この後食堂棟 LED 交換工事を実施：1,998,000 円

※台風被害関連修繕工事

① 体育館屋根補修工事：972,000 円（式典会場）

② 食堂テラス床修繕工事：810,000 円（祝賀会会場）

③ 台風被害倒木処理工事：721,000 円（全体）

※平成 28 年度自己収入増で実施した各種工事等について

利用者増により、自己収入が増額：13,950,000 円

・講堂 LED 交換

・宿泊棟和室畳交換

・公用車交換（プリウス）

※施設マスタープランについて

段階的・長期的施設整備計画を立てるべく作成を心みたが、作成しても具体的な工事に結びつかず、見通しが立たない。作成については、いったん白紙とする。

なお、策定については引き続き進める。

4 高い倫理観・使命感を兼ね備えた人材の育成に関すること

- ① 人材育成基本計画の内容の見直し、適切な時期に、効果的・効率的な研修の実施  
救命救急（心肺蘇生）2月 ⇒ 5月  
保健衛生（ノロ） 1月 ⇒ 10月

※人事異動等による職員の入れ替わりへの対応やノロウイルスやインフルエンザが本格的に流行する前に研修を行う

また、高い使命感の育成にあたり、ハイキング・登山など広大なフィールドを提供していることから危機管理・安全管理は非常に重要なウェイトを占める。

活動時の気象状況や登山等実施に係る可否の判断基準を整理し、職員の共通理解を図ること。また、職員による登山やハイキングコースの踏査研修や危険個所の点検を日常から行い、利用者が安全かつ有意義な活動ができるよう職員一人一人が日頃から危機管理・安全管理の意識付を行い、適切なアドバイスができるよう、使命感を持った人材の育成に取り組んでいる。

○議長

各部会からの報告等について、意見・質問等があればお願いしたい。

□委員

特になし。

○議長

つぎに、議題2「平成28年度自己点検・評価」から議題3「平成29年度運営計画（案）」まで事務局から説明。

●事務局

パワーポイント資料に基づき説明。

<平成28年度自己点検・評価>

・資料1に基づき説明

平成28年度業務実績

利用促進部会

事業部会

管理運営部会

※50周年記念事業関係

＜施設業務運営委員会＞ 資料 2

平成 29 年度施設業務運営委員会日程（案）

※同日で各部会も開催する

第 1 回

- ・ 5 月下旬から 6 月上旬
- ・ H29 年度運営計画

第 2 回

- ・ 11 月下旬から 12 月上旬
- ・ 中間評価

第 3 回

- ・ 2 月下旬から 3 月上旬
- ・ 年度評価
- ・ 次年度運営計画

※＜事業視察＞ 各委員 1 回程度

平成 29 年度委員会体制

＜施設業務運営委員会＞

- ・ 管理運営部会
- ・ 事業部会
- ・ 利用促進部会

◆平成 29 年度組織体制（予定）

平成 28 年度 23 名→平成 29 年度 22 名（▲1 名）

◆利用促進部会のポイント

- ・ 旭山動物園、富良野自然宿との連携
- ・ 営業チームを編成し、上川管内・札幌市を中心に営業を実施
- ・ 体験会の実施

◆事業部会

- ・ 家族（幼児）向け事業「旅うさぎファミリー」のスタート
- ・ ボランティア自主企画事業のスタート

◆管理運営部会

- ・ 自己収入確保の取組（平成 29 年度からクラフト材料費等の収入化）
- ・ 定員削減の検討

○議長

事務局からの説明及び各部会からの報告等について、意見・質問等があればお願いしたい。

○議長

その他意見・質疑等がなければ以上で予定していた議事を終了する。

□委員

特になし

全体会終了。